

第1回 新・県営水道ビジョン策定に向けた検討委員会

議事要旨

1 日 時

令和8年8月21日（金）13：00～14：30

2 場 所

兵庫県私学会館2階大会議室

3 出席者

- (1) 委員（4名）
- (2) アドバイザー（1名）
- (3) オブザーバー 県関係課（3名）、受水団体代表（9名）

4 議事項目

- (1) ビジョンの概要（資料3－1、資料3－2、資料3－3）
- (2) 県営水道の現状と課題（資料4）
- (3) 水需要調査の結果、今後の検討の方向性（資料5－1、資料5－2）

5 主な質疑応答

(1) ビジョンの概要

（委員等）

- ・ 建設計画やアセットマネジメント推進計画等、実施計画のようなものもビジョンの中に書き込む形と見受けられるが、その予定か。

（事務局）

- ・ ビジョンと実施計画を合わせた形になることを想定している。建設計画やアセットマネジメント推進計画等に関して、大まかな方針や方向性は委員会で議論し、詳細は各計画に委ねることを想定している。

（委員等）

- ・ ビジョンにはそこまで具体的に書き込まず、方向性がはっきりする書き方をされる方が良いと思う。表に書く言葉と、その中で進められる計画とは別に揃えるのが良い。

(2) 県営水道の現状と課題

（委員等）

- ・ 今後、自己水から県水へ転換する受水団体が増えた場合、肌感覚として、

少々の量であれば受け入れ可能か。それとも、新たな施設整備が必要となるか。

(事務局)

- ・全体的に施設能力に大きな余力はない。基本的に、受水団体の水需要に応じて、施設整備している。

(委員等)

- ・今後の給水量増加の可能性や工事を想定すると、10年先ぐらいを見据えて、施設能力に余裕を持たせておく方が、レジリエンスの観点から良い。

(事務局)

- ・施設能力は、大規模な県水転換が生じた場合は対応しきれない可能性があるため、水需要調査の結果も踏まえ今後検討していく。

(委員等)

- ・職員が減少する中、職員確保に向けて具体的に考えている取組を教えてほしい。

(事務局)

- ・思いついたところは実施している。他には官民連携やAIを活用した新技術が考えられるが、兵庫県では先進的な取組が出来ていないのが実情である。そのため、他団体の事例や民間企業の提案等を踏まえた議論を重ね、実現可能性が高いものについては本ビジョンに織り込んでいきたい。

(委員等)

- ・職員数の減少を踏まえると、各自治体で個別に技術職員を確保することが、今後かなり厳しくなり、官民連携に向かうことは避けられないと想定しているため、官民連携は積極的に進めたほうが良い。

(委員等)

- ・先ほど各受水団体の水道の事業経営は厳しいという話があり、現時点では、人材不足のためなんとかしてほしいという要請は来ていないとのことであったが、もしそうなった場合には、垂直統合等も視野に入るのか。

(事務局)

- ・兵庫県の水道行政の方針としては、広域連携について企業庁は垂直連携を進めていくこととされており、それを進めていく立場と考えている。

(委員等)

- ・本ビジョンを策定するに当たっては、先を見据えた上でこの10年を考える必要がある。その時に各受水団体の状況を県として何も考えないというわけにはいかないため、書ける範囲で組み込んでほしい。

(3)水需要調査の結果、今後の検討の方向性

(委員等)

- ・他の用水供給事業者では、単純に足し合わせず独自に各受水団体の水需要予測を行い、実際に必要な水量を算定している。企業庁では独自の水需要予測をする必要はないのか。

(事務局)

- ・企業庁の用水供給事業は責任水量制である。理由は、例えばある受水団体の契約水量が減少してコスト回収が出来なくなると、他の受水団体に負担がかかるためである。したがって、各受水団体には、必要と言った水量は取水していただく形としている。必要水量が減少すれば、各受水団体の自己水源で調整をお願いしたい。
- ・マクロの視点ではあるが、将来推計人口と比較した時に、全体の水需要の増減が動きとしてはおかしくない、人口並となっており、各受水団体で凸凹はあるかもしれないが、トータルで申込水量は過大でないと判断している。

(委員等)

- ・他の用水供給事業と異なる点は、自己水源の割合が多い地域がある。よって、今の説明もあり得る。

(委員等)

- ・受水団体からの申込水量に対して、施設整備をし、その水量を送水すれば問題ないというだけでは、企業庁の役割をそこでとどめてしまっているように聞こえる。各受水団体の状況を考えた時に、構想を少し長い目で見て考える必要があるのではないか。

(委員等)

- ・本ビジョンに実施計画の性格を持たせるのであれば、もう少し具体的にする必要はある。方法としては、バックキャスティングが最近流行っており、KPI、数値目標を持ってくることもあるだろう。

ビジョンの性格として、中長期で目指す姿を提示するものとするか、そういった姿をブレイクダウンして、10年にわたるロードマップを描くか、どういう作り方をされようとしているのか。

(事務局)

- ・今後検討する。

※議事要旨に関する注記

当委員会の自由闊達な意見交換等の観点から、委員名については記載を控えています。